

## 第7回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会 ワークショップまとめ

1 日 時 平成27年11月16日(月)14時00分

2 場 所 本庁舎9階 会議室

3 出席者

- (1) 委員 5名
- (2) オブザーバー(基本構想策定委託者)3名
- (3) 事務局 市民生活部長ほか4名
- (4) その他 庁内関係者2名

4 次 第

(1) 開会

(2) 第6回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会の議事要旨

(委員長)

前回の振り返りとしては、市の上位計画をご説明いただいた。主な話としては、敷地の中の施設の検討ではなくて、まちの中で複合施設がどのような役割を果たせるのか、あるいは駅からの距離や、まちの主な移動手段や経路はどのようになっているのか等の関係を改めて認識する回であったかと思う。

その成果として「まちづくり」というキーワードが新たに追加された。また、これまでいくつかのキーワードやアイデアが出された中で、今後、既存の施設が同居する考え方ではなくて、1つの新しい施設を考えていくという視点に立ったときに、主な機能として「鑑賞」、「活動」、「窓口」、「展示」という大きな括りの4つの機能が考えられるのではないかとということをもとめさせていただいた。

これらを整理したのが、お配りしたカラーのアイデアマップ(※1)となっている。例えば、赤色で「鑑賞」となっているのが、4つの機能のうちの1つを示している。黒地で白文字となっているものが今まで委員の皆様から出たキーワードであり、「機能連携」といった言葉がその一例である。その下に「機能連携」とはどのようなことかということで具体的に説明が記載されている。また、白地で黒文字のものが具体的なアイデアとなっており、「プラネタリウムでコンサート、大人向けのイベント」ということで、具体的には科学館となると子どもに関心が集まりがちだが、大人向けのイベントを増やしたり、パブリックビューイングをしたりすると面白いのではないかとということである。

本日、意見として出していきたいのは、白地に黒文字のレベルの文化活動の

アイデアである。より具体的にこんなことができれば良いのではないか、場所、設備等を意見として出させていただき回としたい。また、今回は検討委員会の委員だけではなく、市職員の方々にも参加いただくことになっており、分け隔てなくアイデアを出したいと思っている。

以上が前回までの内容と本日の方針である。本日のワークショップは北海道大学大学院工学研究院(以下、北大大学院)で進行をやらせていただきたいと思います。※1 アイデアマップについては未完成のため、次回以降の検討委員会で完成でき次第、市ホームページへ掲載予定。

(3) 新しい文化活動内容の検討(キーワードの整理) 要旨抜粋

※先頭に・を表示しているものは、第2～6回までの検討委員会で出てきたアイデア。○は今回のワークショップで出てきたアイデア。

<b>共通</b>
<b>パラダイムシフト</b>
<b>公共性</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・きめ細やかなサービス(可児文化創造センター)</li> <li>・地域のためのレジデントシアター(可児文化創造センター)</li> </ul>
<b>脱所管・脱管轄</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会ごとの検討(茅野市民館)</li> </ul>
<b>相乗効果</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペースの共有</li> </ul>
<b>文化拠点</b>
○図書館、美術館、博物館との連携を重要視して、音楽や文化の情報を集約化
<b>アクセシビリティ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場の複合</li> <li>・パーク&amp;ライド</li> </ul> <p>○立体駐車場等を活用した屋外スペースの有効利用</p>
<b>コストパフォーマンス</b>
○優先順位の検討
<b>図と地</b>
○ゾーンの活用
<b>市民主体</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しない、できない市民に対する情報発信</li> <li>・多数の市民ワークショップ(茅野市民館)</li> </ul>

## 活動

### 地域活動

- 折り紙教室を実施して、作品をクリスマスツリーに装飾
- 地域紹介の演劇

### 余暇環境

- アートファクトリーとして多目的に使えるレッスン、キッズルーム、音楽ルーム
- 男性をターゲットとした料理教室
- アトリエ教室

### 管理運営組織

- ・株式会社による細やかな運営(茅野市民館)
- ・二つの NPO による役割分担(アオーレ長岡)
- 民間と行政を絡めた運営形態

### 共用空間

- ・コミュニティ FM(名寄市民文化センター)
- ・展示と生涯学習が図書スペースを共有(茅野市民館)
- イベント認定やスタンプラリーのような形で活動評価の機会提供
- カリキュラムとコースを作ったコミュニティカレッジ

### フレキシビリティ

- ・可変式の空間やパーティション
- ・会議室の削減、気軽な会議スペースとしての共用空間(アオーレ長岡)

### 雰囲気づくり

- ・プロのスタッフが常駐(可児文化創造センター)
- ・ボランティアスタッフ(千葉市科学館)
- 人材バンク、アーティストバンクで登録されている方々を講師として招き、地域活動に貢献していただけるような仕組みづくり

### 創作環境

- ・苦小牧らしいものづくりの場
- ・地元企業の展示(千葉市科学館)
- 個別に使用できる音楽のレコーディング室
- ファッションショー
- アマチュアを対象とした食の発表会
- ロボットコンテスト
- 家庭で不要になった本の再活用を目的としたリサイクル活動
- 面白い・興味深い本を有志の市民で紹介しあうプレゼン大会
- テーマ性を持たせた分室

(委員長)

- ・地域活動を市民に発信して、展示というかたちでフィードバックさせる活動と展示の連携方法は興味深い。
- ・リピーター創出のために、地域活動の途中経過を展示等の見えるかたちにして興味を持ってもらうというのは大切な考え方である。
- ・芸術活動にはいくつかの段階があり、徐々に作品のクオリティを上げて活動をステップアップできるような鑑賞や芸術活動につながる場作りを提供していくことが重要である。

## 展 示

### 日常利用

- ・書店やカフェの併設
- ・交通安全のワークショップ
- ・図書館の分室(茅野市民館)
- ・ロビーでの美術展示(茅野市民館)
- 廊下を博物館代わりとして興味・関心のない人も鑑賞できる工夫
- 苫小牧名産のホッキ貝や魚介類の解体ショー
- サテライト施設

### リピーター

- ・大人向けの講座(千葉市科学館)
- キッズニア、職業体験コーナー

(委員長)

- ・展示しているものについて価値を伝達、発見、認知してもらうことは重要である。
- ・活動と連携して製作物の途中経過やコンテストの一部始終を見えるかたちにすることによって、今まで興味や関心がなかった方々に対して機会を提供することができる。

## 鑑 賞

### 機能連携

- ・プラネタリウムでコンサート、大人向けのイベント(千葉市科学館)
- ・パブリックビューイング(千葉市科学館)
- 展示と連携したコンテストの途中経過報告会(高校生の卒業設計コンペティションの様子等)

<p><b>アウトリーチ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独自のチケット割引システム(可児文化創造センター)</li> <li>・日本フィルハーモニーのアウトリーチ活動(可児文化創造センター)</li> </ul> <p>○小中学生を対象に演劇のワークショップを通して卒業公演を行う</p>
<p><b>圏域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌をエリアに含めるか(茅野市民館)</li> <li>・文化交流センターとの役割分担</li> </ul> <p>○交通手段をどのようにするか</p> <p>○空間の連続性</p>
<p><b>ついで利用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロビーコンサート</li> <li>・飲食フリースペース</li> <li>・レストラン、ATM の併設</li> </ul> <p>○総合案内所にコンシェルジュを配置し、市民が気軽に情報収集できる</p> <p>○レストランにホールの様子を写すモニターを配置するといった食と音楽の連携</p>
<p><b>居心地</b></p> <p>○噴水</p> <p>○子ども達が走ったり、遊べるような遊具</p> <p>○屋外ランドスケープの整備(芝生を張って寝転がったりできるような場所の提供)</p> <p>○様々な高さのイスを設置して見た目にも楽しい空間</p> <p>○無料であったり、敷居の低い空間</p>

(委員長)

- ・屋外は自由に滞在しやすい空間だが、屋内でも自由な利用のできる排他的にならないパブリックスペースが大事であり、そのような場を活用した文化活動を検討していく必要があると思う。

<p><b>窓 口</b></p>
<p><b>情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS での情報発信</li> <li>・人通りの多い駅前での周知</li> </ul>
<p><b>まちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レンタサイクル</li> <li>・コミュニティバス</li> </ul> <p>○苫小牧市に関わる魅力の再発見(市旗の由来、勇払千人太鼓を使った音楽発表等)</p>
<p><b>定常・定期利用</b></p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・免許更新</li> <li>・確定申告</li> <li>○近隣施設のチラシコーナー</li> <li>○自習室</li> <li>○併設のレストランやカフェで使用できる無料クーポン券</li> </ul>
<p><b>無目的利用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所がもたらす人の気配(アオーレ長岡)</li> </ul>
<p><b>居場所</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○限定的に飲食可のスペース</li> <li>○屋外にドッグラン併設</li> <li>○お祭り等の催事に使用できる半屋外空間</li> <li>○全国うまいもの市</li> <li>○場所の選択肢、バリエーション</li> <li>○コインランドリーを設置して、待ち時間をママ友のおしゃべりの場所として活用</li> <li>○キッズスペース</li> <li>○子ども達が自由に描いたりできる落書きスペース</li> </ul>

(委員長)

- ・苦小牧市として色々なイベント等されていると思うが、情報が分散している状態になっているので、拠点的に集約していくべきである。
- ・専用の空間をつくるよりも、様々な用途を持った人が同居できるような空間があれば、居場所や無目的利用として使いやすくなるのではないかと考えている。

～まとめ～

(北大大学院)

委員の皆様の話をついて思ったことが、どの意見もどれか一つの機能に当てはまるわけではなく、全ての機能に関係するものが多いと感じた。また、皆様の意見も、ホールなどの設備自体の話よりも、市民が継続してイベントに参加できるようなモチベーションの維持やきっかけ作りの場所に関する意見が多く出てきている。基本計画以降はさらに具体的な活動計画の検討に入らと思うが、今までの検討委員会の議論が繋がりをもって共有されていることが実感できた。それでは、最後にワークショップ全体を通して委員の皆様から感想をお聞きしたい。

(委員)

本日、皆様から出てきた意見は共有されたと思うが、予算がある中でこれから優先順位を考えていく必要がある。今日は意見としてあまり出てこなかったが、足を運ぶ方法として交通手段をもう少し考えていかなければいけないと感じた。

(委員)

全てを網羅しようと中途半端な施設にならないようにしなければいけない。現状あるものは継続できなければならないし、それに加えて将来に向けてどれだけ機能を付加していけるか、これをどこまで具現化していけるかということになるが、機能として共有できる部分もあるので、不可能ではないと思う。

(委員)

委員会の初期は、複合施設としてホールを意識して考えていたが、本日のワークショップを通して実感したのが、ホールだけでなく、いかにリピーターを創出できるようなきっかけ作りが必要だと感じた。また、先ほど出ていた居場所というキーワードの中で、私が印象に残ったのが総合案内所のコンシェルジュである。そこでアピールをしていたら、市民に対して先の予定やイベントをお伝えできて良いと思う。

(市職員)

皆様の意見やアイデアを聞いていて、率直に楽しい施設になるだろうと思った。こういった公共施設を建設する場合、考えている自分たちがワクワクするような施設や機能を考えない限り、他の人々をワクワクさせるようなことは難しいと思う。

(市職員)

皆様の色々な意見をお伺いして、きっと楽しい施設になるだろうと感じた。ただ、私個人の意見としては、これから何十年先を考えたときに、この市民ホールが一味違うものになれば良いと考えている。単に市民ホールを建設するというだけでなく、もっと広い目で見て苫小牧市全体を考える中で、もっと良い市民ホールに関するアイデアが生まれてくるのではないかと考えている。

(市民生活部長)

苫小牧市は商圈がまちの東側に移り、休日になると大型商業施設を中心に市民の多くの方々は東側に行ってしまうというのが現状である。これから屋外の活用の仕方を含めて、市民ホールは大型商業施設との差別化を図って人の動きをつくっていかなければならない。また、新しい市民ホールのあり方として、周辺のゾーンを含めた生かし方としてどういった特色持たせれば良いかを考えていた。本日は皆様からイベントを含めた興味深い意見を聞かせていただいたが、今後もこういったフラックな議論もやっていければ良いと考えている。

(市民生活部次長)

本日のワークショップを通して「活動」、「鑑賞」、「展示」、「窓口」は関係でいくと、全て「活動」が基になっているのではないかと思った。例えば、音楽の発表会は始めに練習があって、練習は「活動」にあたるし、発表会は「鑑賞」にあたるだろうと感じた。4つの関係は、「活動」が土台にあってそこから種類に応じて発表の場として「鑑賞」、「展示」、「窓口」に分かれていくのではないかと思う。その中で、「活動」は多くの人々が集まるだろうし、「鑑賞」、「展示」の見せ方によってはPRの場になって、そこから活動の輪が広がるのではないかと感じた。そういった活動をサポートしていくのが管理部門の「窓口」になるのではないかと考えている。

(委員長)

今、私たちが議論しているのは基本構想に関わる目標の議論であるので、コストパフォーマンスも大事なのだが、何がしたいのか明確に持つておくのが重要だと思っている。本日は具体的にこういったことをしたいという活動イメージがある程度の密度を持って出てきたと思うので、次回はこれら全体に関わるメインテーマを整理して委員の皆様へ提示できればと思っている。各機能に関わる共通部分に関しては、複合施設の理念にあたることだと思うので、次回は、理念に関しても文章化する形にして基本構想の草案として資料を作成して、委員の皆様と議論を行いたい。本日は非常に楽しいアイデアがたくさん出てきたと思う。